

## 2024年度 第3回 地域事業支援会議 徳島県士会版

### 「私たちの地域は私たちの手で」

今年度を締めくくる第3回地域事業支援会議は、3月9日(日)午前オンラインにて開催されました。全国47都道府県より総勢160名超の方が参加されました。当士会からは、角野國雄(小松島病院)、吉野哲一(大久保病院)、井上俊子(小松島病院)、河野祐一(ロイヤルセンター)、市橋慶二(鴨島病院)らが出席しました。

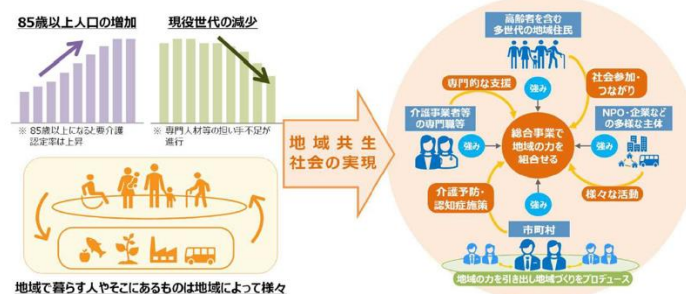
日本作業療法士協会(以下、協会)として重点を置く“地域における作業療法士(以下、OT)の役割”について新しい情報を含め確認し、グループワークでは出席者による意見交換が行われました。山本会長からは標題の「私たちの地域は私たちの手で」の通り、協会が目指す地域で活躍するOTの未来に向け、力強い挨拶をいただきました。

谷川常務理事からは、協会の2025年度重点活動項目にあがる地域共生社会5か年戦略関連として、地域で活躍できる人材育成への取り組みが加速されること、介護予防・日常生活支援総合事業ガイドライン改定の読み解きなどについて発信されました。また、佐藤理事からも“静かなる有事”である今の日本の現状に対する危機感を持ちながらも、あらためてOTが得意とする生活やその質のアセスメント、総合事業の多様性に対応しその適切な選択の支援が必要とされていることをお伝えいただきました。

### 各事業の報告

#### 総合事業の充実に向けた基本的な考え方

- 2025年以降、現役世代が減少し医療・介護専門職の確保が困難となる一方で、85歳以上高齢者は増加していく。また、こうした人口動態や地域資源は地域によって異なる。
- こうした中、高齢者の尊厳と自立した日常生活を地域で支えていくためには、市町村が中心となって、医療・介護専門職以上の専門性を発揮しつつ、高齢者や多様な主体を含めた地域の力を組み合わせるという視点に立ち、地域をデザインしていく必要がある。
- 総合事業をこうした地域づくりの基盤と位置づけ、その充実を図ることで高齢者が尊厳を保持し自立した日常生活を継続できるように支援するための体制を構築する。



### 1. 各事業より事例集、マニュアル、手引き…続々公開!

令和7年度4月以降、協会ホームページにて『サービス・活動C(短期集中予防サービス)実践事例集~ADL・IADL・趣味活動編~』を公開予定です!

引き続き「医療から地域(在宅)移行」「短期集中サービス」に関する事例をお寄せいただき、事例集として関係内外へ発信できるように事例集を作成中です。令和7年度は「医療から地域(在宅)移行」に関する事例集の作成を目指してまいります。

『保険事業と介護予防の一体的実施事業作業療法士参画マニュアル』が完成しました。一体的実施事業の概要から事業の進め方、OT参画事例まで、参画に向けた実践のための手順書ができました。

引き続き『士会マネジメントQ&A』『地域包括ケアシステム参画の手引き(第2版)』もご活用ください。



### 2. OT参画実態調査のお礼

各市町村の地域支援事業へのOT参画状況を明らかにすることを目的に、1,741自治体ごと調査依頼をさせていただきました。979件のご回答をいただきました。士会事務局、選任者、ご回答いただきました皆様へ、ご協力に大変感謝いたします。結果につきましては各士会ごとフィードバックさせていただきます。



### 3. 作業療法士参画モデル事業 公募のお知らせ

第2期地域づくりに資する作業療法士参画モデル事業の公募が始まります。作業療法士が「地域づくり」関連の地域支援事業や地域での取り組みに参画することを応援します。詳しくは、4月頃に協会ホームページの会員向け情報>地域社会振興関連>地域包括ケアシステム関連をご参照ください。

### グループワーク テーマ：士会マネジメント

グループワークは、各県士会の人材確保の方法や工夫と市町村担当者の役割の共有方法を共有し、それぞれの士会の取り組みの特徴を知り、自分の県でできることがないかを探求するような話し合いができ、とても有意義なグループワークとなりました。

### 編集後記

3月の地域事業支援会議では、重点活動項目である地域支援事業参画や士会マネジメントについて、振り返りを行いました。中四国各県の意見交換では、地域包括ケアや共生社会実現に向けて、OT士会が体制整備・人材育成・地域連携を多面的に実行中(構築中)であることが挙がりました。課題は県間連携・情報共有の強化とともに地域特性に応じた柔軟な支援体制の構築が鍵となりそうです。次年度も各事業から公開されている事例集・マニュアル・手引きを活用し、新たに事業展開した自治体が増えるように、OTが医療・福祉・地域を横断しながら、人々の暮らしに寄り添う活動を行い、多職種協働や新たな仕組みづくりにおける一助となることを願っています。

徳島県士会 担当：河野